

イ 題材の構想<13時間完了>

田植えや稲刈り体験を通して、米の大切さを知ろう。④

○米作りについての一人調べを田植え体験の前に行い、学習意欲を高める。

- ・米作りを学び、米に関心をもって体験活動に取り組む。
- ・米作りの苦勞を知り、お米の大切さに気付く。
- ・友達と協力したり、地域の方とコミュニケーションを取ったりして、米作りに積極的に取り組む。

農家の方にプレゼントする米を使った料理を考えよう。③

○農家の方へ感謝を伝えるという目標をもち、学習意欲を高める。

○米を使った料理を調べることで、米が様々な料理に使われていることを知る。

- ・米を使った料理を調べる。(家庭学習・パソコン)
- ・調べたことを班でまとめて発表する。
- ・ご飯のよさを生かし、おいしく食べてもらえる料理をクラスで考える。

おいしいご飯の炊き方を知り、友達と協力しておいしいご飯を炊き、試食をしよう。④

○米の変化をわかりやすくするために、変化がわかる写真を拡大し板書する。

- ・米の吸水や過熱の仕方や変化を知る。
- ・班で役割を決め、手順について確認をする。
- ご飯を味わって食べるために、米を使った料理をプレゼントすることを目標としていることを確認する。
- ・米の変化を観察しながらおいしいご飯を炊く。
- ・班の友達と協力して、調理実習を行う。
- ・ご飯の炊き方を振り返り、班で良い点や改善点について考える。
- ・次回の調理実習の計画を立て直す。

米を使った料理で農家の方へ感謝を届けよう。②

○児童が自信をもってご飯が炊けるよう、おいしいご飯の炊き方を復習する。

- ・計画を振り返り、友達と協力して意欲的に調理実習に取り組む。
- ・米を大切にし、感謝の気持ちを込めて調理する。
- ・米作りから学んだことや感謝の気持ちを伝え、米を使った料理をプレゼントする。

ウ 授業の実際

① 田植え・稲刈り体験

米作りの一年間の仕事の流れを調べた後、体験を行った。体験前、子どもたちは泥に入ることに抵抗があったり、虫に抵抗があったりしたが、体験を始めると熱心に楽しく取り組む姿がみられた。勉強したことを実際に体験できたことから「楽しかった」という感想が多かった。しかし、楽しいという感想だけでなく、「お米作りは大変だ。」「これからは、一粒一粒大切に食べたいと思う。」「家族にも話して、みんなでお米



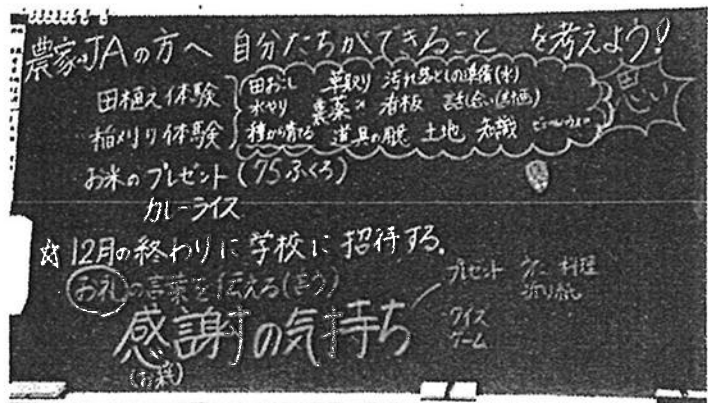
を大切にしたい。」と食について深く考え始める感想もあり、実際に体験する

ことの大切さを感じた。また、社会科の授業で農家が減少している事実や理由を知ると、米を大事にしたいという意識がさらに強まり、給食のご飯を意欲的に食べる児童や、ご飯が余っていると、進んでクラスに声をかける児童が増え、クラスの残飯が減った。食に対する意識の変化を学校生活の中でも捉えることができた。

② 農家の方にプレゼントする米を使った料理を考えよう。

田植えや稲刈りという貴重な体験ができたことについてどう思うか問うと、農家の方がわたしたちのためにいろいろな準備や協力をしてくださったからだという意見がほとんどであった。そこで、わたしたちは農家の方に何が出来るかを考えた。すると、「感謝を伝えたい。」という意見が多く出た。感謝を伝える方法のひとつとして、米を使った料理のプレゼントをするという案が出されたので、まず、米を使った料理について調べ、班でまとめた。この活動を通して「お米にはいろいろな料理があることを知った。」「お米は人々の生活を支えている食材のひとつだと改めて感じた。」「お米はいろんな料理と相性が良いことがわかった。」など、米に対する考えや知識が深まった様子が伺えた。

調べ学習を終え、どのような米料理がプレゼントに適しているのかについてクラスで話し合った。そこで、「カレーライス」と「おにぎり」の案に絞られた。「5年生では、調理方法としてゆでる方法しか習っていない。」「冷めてもおいしい料理がよい。」「お米そのものの味を生かしたものがよいと思う。」など、自分のできる調理方法について考えたり、農家の方のことを考えたり、米の味のことを考えたりする様々な意見が出された。最終的に、「おにぎりに」に決まった。他の料理に比べると簡単にできる。



(プレゼントに適している米を使った料理について話し合った後の板書)

が、米の味そのものを味わってみたいという思いから、「おいしく炊くことに力を入れよう。」とクラスの見解がまとまった。

③ おいしいご飯の炊き方を知り、友達と協力しておいしいご飯を炊き、試食をしよう。

家ではどのようにしてご飯を炊いているのかを聞くと、「炊く前にお米を洗うよ。」「炊飯器で炊くよ。」「うちは、お米を洗わずに炊いている。」など、家庭でご飯を炊く経験をしている児童からいくつかの声が上がった。学校では、炊飯器ではなく米の変化を観察できる透明の鍋を使ってご飯を炊くことを伝え、米の変化について確認をした。ご飯を炊くにはまず吸水が必要なことや炊いている際に米がどのように変化していくのかを写真を見て確認した。すると、「早く見たい。」「早く炊きたい。」と米を炊くことに興味を示し、班で協力して計画を意欲的に立てることができた。調理実習の日、調理実習の前に吸水時間をあらかじめとり、調理実習に入った。普段、家庭で炊飯器を使ってご飯を炊いたり、ご飯を炊く経験をしたことがなかったりする児童が多かったので、透明の鍋で米の変化が見えると、感動の声がたくさん上がった。その後、どの班も協力して調理実習を行っていたが、米の変化が早く、鍋底の米がこげている班が多くあった。児童は実習後の感想で、「火加減が難しかった。」「時間を計るのが大変だった。」など、火加減と時間について感想が集まった。味についてはどの班も満足しているようだったが、焦げたところが多く、食べられる量が減ったことを問題視していた。



感想 (くふうしたこと、気づいたこと、むずかしかったことなど)
 初めはこげを少しはいた、
 けど、時間も計ってやると時
 にこげないでできた。

感想 (くふうしたこと、気づいたこと、むずかしかったことなど)
 米の火の強さや弱さが
 しかった。少しはこげができてい
 た。

(調理実習後の子どもの感想)

その後、プレゼントする際に焦がさず、よりおいしいご飯を炊くための改善策を班で話し合った。ご飯の焦げた範囲が広がった班の話し合いでは、一人の児童が「時間をしっかり守ってもできなかったということは、時間通りに炊くよりも、ご飯の様子を見ながら火加減を変えていくことの方が大切なかもしれない。」という意見を述べていた。それに対して賛成する児童や「それ以前に分量などもしっかり確認しよう。」と意見を付け足す児童もいた。原因をひとつにしぼって考えるのではなく、様々な視点から考えることができた。また、保護者にコツを聞いたり、パソコンを使って調べ学習をしたりして、感謝の会に向けて力を入れる児童の姿もあった。米を大切にしようとする姿や、プレゼントするおにぎりのご飯をよりおいしく炊きたいという姿がどの児童からも見られた。



(米の様子を集中して観察する子どもたち)

④ 米を使った料理で農家の方へ感謝を届けよう。

感謝の会の当日、同じように吸水時間をつくり、前回の反省を生かしてご飯を炊いた。前回の実習よりも集中して米の様子を観察して活動していた。話し合ったことや、お家の人に聞いたことや

調べてきたことを生かし、みんなと協力して実習を行った。2回目ということもあって、効率よくご飯を炊き、片付けまで行うことができた。焦げる範囲も狭くなり、結果が目に見えて出たので、おにぎりを握るときも楽しく前向きな気持ちで思いを込めて握ることができた。

感謝の会では米を使った料理の他、思いを手紙に書き、感謝の言葉を添えておにぎりをプレゼントした。農家の方からは「これからもお米を大切にしてほしいし、たくさん食べて欲しい。」というお話があった。感謝の会が終わると、どの子も満足そうな表情を浮かべていた。「おいしいって食べてくれたかな。」「感謝の気持ち伝わったかな。」など楽しそうに話す児童もいた。



(感謝の気持ちを伝える子どもたち)

Ⅰ 成果と課題

児童は様々な体験から、米の大切さを知ることができた。さらに田植え、稲刈りという農業体験から、米作りの大変さを知った。田植えに対するイメージが大きく変わったのはもちろん、農家の方の苦労や思いを知ることで、子どもたちの米への意識は大きく変わった。児童が米を家に持ち帰ると、翌日お家の人から「おいしくいただきました。お米の大切さについて話すきっかけとなりました。ありがとうございます。」と感想をいただいた。自ら学んだことを家庭に持ち帰り、振り返ることができるとてもよい体験となった。調理実習では、ご飯の炊き方を学ぶだけでなく、炊いたご飯を農家の方にプレゼントするという目的をもつことによって、子どもたちの実習への意欲はさらに増した。おいしく炊くにはどうしたらよいか、ということを班で話し合ったり調べたり、改善や工夫をして調理実習を行うことができた。

今回の実践で米を通して、学校は地域や家庭とつながることができた。しかし、家庭からの感想を農家の方に伝えるなど、少し工夫をすれば、地域と家庭がつながることもできたように思う。今後は、学校を通して地域と家庭がつながれるような単元構成を工夫していきたい。また、米だけでなく碧南の特産物などにも目を向け、米以外の食にも興味をもち、大切に作る気持ちが生まれる働きかけをこれからも模索していきたい。